

世話を嫌がることはどうして起こるの？

認知症の人は、介護者から言われてすぐに行動したり、理解することが容易にできなくなります。また、判断力の低下に伴って、自分の周りで起きていることが把握できない場合があります。そのため、介護者の行うことが、良かれと思って行うことでも認知症の人が混乱を引き起こしたり、不安や焦燥感を持ち、世話を嫌がる場合があります。

一度にいろいろなことを言われたり、急がされたりするとストレスがたまり、イライラします。このようなときは、「ゆっくり」「はっきり」「分かりやすく」を基本に、時間をかけて、順序立てて、少しずつ認知症の人の気分を変えましょう。介護者の思うような方向に向かわなくても、腹を立てたり、ことを焦って無理強いすると、さらに抵抗が増して思わぬ行動を引き起こす原因になります。他の人に危険が及ばない限り、本人の行動は大目に見てください。日常生活のちょっとした場面、例えば着替えや食事、入浴などで言葉かけを多くすることで、認知症の人に、感情的な温かさや優しさが伝わります。自分に特別な関心を寄せる人の存在を感じることで、認知症の人は安心し、心のよりどころが生まれます。



以前と比べてチェックリストのような変化が続くときは、すぐに最寄りの地域包括支援センター（地域によって名前が違うことがあります）や適切な医療機関に相談してみましょう。

もしかしたら認知症の初期かもしれません。でも心配はいりません。早く診断できれば、あなた自身や

ご家族が認知症についてきちんと理解する時間をもて、十分に対応できます。原因によっては治療法があります。

チェックリスト

- 同じことを何度も言うとか聞くと周りから言われることが多い
- いつも捜し物をしていることが多い
- 財布や通帳など大切なものがなくなる
- 約束を忘れたり、待ち合わせの場所に行き着けなかった
- 片付けや料理、運転などが以前のようにうまくできなくなった
- テレビのドラマは筋を追うのが面倒くさい
- 身だしなみを整えることが億劫になり、構わなくなった
- 趣味や好きなことに関心がなくなった
- 何をするのも億劫になった